# 福井歯科専門学校

３７期生２年生

シラバス

講義要項

実務経験のある教員等による授業科目の概要

| 科目 | 講師名 | 実務経験 | | 授業の概要 |
|---|---|---|---|---|
| 教育学② | 龍野　篤朗 | 有 | 元高校教師 | 過去に高校教師として従事した経験を活かし、発表、記録などの学習活動を通して言葉遣いや応対の仕方を身につけたり、内容を省察して深めたりして協同的な探求の良さを習得できるように指導している |
| 倫理学② | 笠井　恭子 | 有 | 大学教授 | 大学での実務経験を活かし、現代医療における歯科倫理的な諸問題について理解できるように指導している |
| 国語表現法② | 前田　安信 | 有 | 元高校教師 | 過去に高校教師として従事した経験を活かし、報告文（レポート）の作成方法等日本語表現の技術を習得できるように指導している。 |
| 口腔解剖学② | 中村　翔 | 有 | 歯科医師 | 歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、口腔の構造の仕組みが理解できるように指導している |
| 歯科薬理学 | 淺井　友啓 | 有 | 薬剤師、歯科医師 | 歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、主に口腔内に使用される様々な分野の薬について名称、種類、作用、特徴、使用方法を理解できるように指導している |
| 口腔病理学 | 小林　淳一 | 有 | 歯科医師 | 歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、口腔領域の組織や臓器に生じる疾病を理解できるように指導している |
| 口腔衛生学･統計② | 谷畠　里誌 | 有 | 歯科医師 | 歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯科保健や歯科医療の場において口腔衛生と統計処理の関係について理解できるように指導している |
| 衛生行政･社会福祉 | 坂口　昌宏 | 有 | 大学准教授 | 大学での実務経験を活かし、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得できるように指導している |
| 歯科臨床概論 | 吉田　恵美 | 有 | 歯科衛生士 | 歯科医院において歯科衛生士に従事している実務経験を活かし、臨床での歯科衛生士の業務と診療の流れを理解できるように指導している |
| 歯内療法学 | 遠矢　東誠 | 有 | 歯科医師 | 歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯内疾患の原因、分類を把握し、疾患と治療法を関連づけて理解できるように指導している |
| 歯周療法学② | 鈴木　一生 | 有 | 歯科医師 | 歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯周治療における歯科衛生士の役割を理解できるように指導している |
| 歯科補綴学 | 坂野　彰人 | 有 | 歯科医師 | 歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、補綴歯科治療の基礎知識、特徴や方法、歯科補綴装置の種類および製作法などについて理解できるように指導している |
| 口腔外科学② | 山口　智明 | 有 | 歯科医師 | 病院歯科において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、患者の全身状態を理解し、緊急時の対処方法を習得できるように指導している |
| 小児歯科学 | 内山　盛嗣 | 有 | 歯科医師 | 歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、小児歯科の特徴を理解し、診療補助、予防等の治療に対応できるよう基礎的な治樹を理解できるように指導している |
| 歯科矯正学 | 田中　滋 | 有 | 歯科医師 | 歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、歯科矯正の目的と意義を理解し、歯科衛生士の役割と責任について習得できるように指導している |
| 高齢者歯科学 | 齊藤　朋愛 | 有 | 歯科医師 | 歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、高齢者歯科の健康を維持、増進するための必要な知識、態度を理解できるように指導している |
| 障害者歯科学 | 山下　治人 | 有 | 歯科医師 | 歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、障害とは何かを理解し、障害者に対して、口腔保健の立場から援助する際に必要な知識を習得できるように指導している |
| 歯科放射線学 | 福島　稔見 | 有 | 歯科医師 | 歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、放射線全般にわたる基礎知識を理解できるように指導している |
| 歯科予防処置実習② | 深川　さやか | 有 | 歯科衛生士 | 歯科医院において歯科衛生士業務に従事している実務経験を活かし、歯・口腔の健康を維持・増進するために必要な専門知識・技術・態度が習得できるように指導している |
| ウ蝕予防処置 | 高垣　喬三 | 有 | 歯科医師 | 歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、ウ蝕予防のために必要な専門知識・技術・態度を習得できるように指導している |
| 歯科保健指導実習② | 吉田　恵美 | 有 | 歯科衛生士 | 歯科医院において歯科衛生士業務に従事している実務経験を活かし、保健指導の裏付けとなる専門的知識の習得と具体的な指導手段、方法の理解、伝達方法が身につけられるように指導している。 |
| 摂食嚥下リハビリテーション学 | 伊藤　祐一郎 | 有 | 歯科医師 | 歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、摂食・嚥下の仕組みとそれに関わる障害についての歯科衛生士の役割を理解できるように指導している |
| 歯科診療補助実習② | 吉田　恵美 | 有 | 歯科衛生士 | 歯科医院において歯科衛生士業務に従事している実務経験を活かし、臨床に向けて、歯科衛生士に必要な診療補助を習得できるように指導している |
| 臨床実習① | 臨床実習講師 | 有 | 歯科医師、歯科衛生士 | 歯科医院において歯科診療業務に従事している実務経験を活かし、口腔保健の専門職として学内で学んだことを臨床の場において実施できる能力を身につけられるように指導している |
| 隣接医学 | 佐野　和生 高柴　綾子<br>川端　登代美 春木　かおり | 有 | 歯科医師、看護師<br>歯科衛生士 | 口腔保健センターや病院において業務に従事している実務経験を活かし、歯科と深い疾患を学び、歯科診療や多職種連携において歯科衛生士に必要な医学的知識を習得できるように指導している |
| 受付･事務 | 春木　かおり | 有 | 歯科衛生士 | 歯科医院において歯科衛生士業務に従事している実務経験を活かし、医療保険の内容が理解できるように指導している |
| 介護技術 | 豊岡　功　吉田　恵美 | 有 | 理学療法士<br>歯科衛生士 | 病院や歯科医院において従事している実務経験を活かし、高齢者の身体的特徴や障害を理解し、かつ具体的な援助技術を身につけられるように指導している |

| 科目名 | 教育学② | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 16 |
| 講師名 | 龍野　篤朗 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 8 |
| 到達目標 | 安定した愛着関係は、子供を一生幸福にする「鍵」であり、すべての親が子供に与えることのできるプレゼントであることを理解する。<br>社会人として人生の困難にぶつかったとき、自分を励ます「親の目」を背中に感じ、自信を持ってそれに挑戦していける資質や態度をつくるための素地を培う。<br>発表、記録など学習活動を通して言葉遣いや応対の仕方を身につけたり、内容を省察して深めたりすることによって、協同的な探求の良さを学ぶ。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 自分なりの言葉や考えを大切にし、それを的確に表現できるように努める。<br>自分とはむしろ異なる意見にこそ耳を傾け、その違いから新たな学びを得ようとする姿勢で臨むこと。<br>ロールプレイには真剣な態度で臨み、実践に通じるものになるように努力すること。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 子を愛せない母　母を拒否する子　学習研究社　参照プリント等配布 | | | | |
| 教材 | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 発達と愛着行動 |
| 2 | 愛着の形成過程・反応性愛着障害 |
| 3 | 発達と愛着行動 |
| 4 | 愛着障害の症状・発達障害と愛着行動 |
| 5 | 愛着の相互性 |
| 6 | 愛着障害の治療・安定した人間関係の用件 |
| 7 | 愛着を深めるために　学生からの提案 |
| 8 | 総括 |

| 科目名 | 倫理学② | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 16 |
| 講師名 | 笠井　恭子 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 4 |
| 到達目標 | 「倫理学」とは、自分自身の道徳的な判断や行為の正当性を保証する根拠（reason）を探り当て、それらを徹底的に吟味する営みそのもののことを指す。本講義では、「倫理学①」において身につけた生命倫理学の知識を下地にしながら、現代の医療（歯科医療倫理）的な観点からさらに検討できる能力を身につける。あわせて、歯科医療倫理を考えるうえで欠かせない行動や規範、方隷についても学ぶ。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 本講義では、多くの関連資料を配付し、映像資料も多用する。そのため、受講生にはそれらの資料を読み解き、処理する能力がとくに求められる。また、最終的にそれらの資料などをもとに、＜いのち＞の取り扱いの是非（倫理的諸問題）に関する自分自身の考えをどれだけ逞しくできるかが最も重要な評価項目であることも十分心得ておくこと。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　■　その他（　レポート等　　）<br>定期試験80％　修学態度（課題レポート提出なども含める）20％を総合して評価する | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　歯科医療倫理学 | | | | |
| 教材 | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 「専門職(medical profession)」とは何か～「医療専門職」としての歯科衛生士 |
| 2 | 「医療倫理(health care ethics)」を概観する～医療倫理の4原則とその問題点 |
| 3 | インフォームド・コンセントの概念とその実際 |
| 4 | 代理判断(substitute judgment/surrogate decision-making)～代理人による意思決定の問題点 |
| 5 | 患者の権利と医療者の義務～ＷＭＡ「患者の権利に関するリスボン宣言」を理解する |
| 6 | 医療者の守秘義務と患者のプライバシ権（自己情報コントロール権） |
| 7 | 歯科医療倫理を考える上で必要な行動～コンプライアンス行動など |
| 8 | 医療倫理に関連する規範と法令を理解する～日本歯科衛生会「歯科衛生士の倫理綱領」等を読み解く |

| 科目名 | 国語表現法② | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 16 |
| 講師名 | 前田　安信 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 8 |
| 到達目標 | 「読む・書く・話す」の3つの領域にわたる基本的な日本語表現能力を身につける。<br>報告文（レポート）作成方法等日本語表現の技術を習得する。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 自分なりの言葉や考えを大切にし、それを的確に表現できるように努める。<br>自分とはむしろ異なる意見にこそ耳を傾け、その違いから新たな学びを得ようとする姿勢で臨むこと。<br>ロールプレイには真剣な態度で臨み、実践に通じるものになるように努力すること。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　）<br>筆記試験、レポート、出席点等を総合して判断する | | | | |
| 教科書 | | | | | |
| 教材 | 配布プリント | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 口語文法一（品詞） |
| 2 | 口語文法二（自立語①動詞） |
| 3 | 口語文法三（自立語②形容詞、形容動詞） |
| 4 | 口語文法四（自立語③副詞、連体詞） |
| 5 | 口語文法五（付属語①助動詞） |
| 6 | 口語文法六（付属語②動詞） |
| 7 | 文の構造（主語と述語、修飾語と被修飾語） |
| 8 | まとめ |

| 科目名 | 口腔解剖学② | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 16 |
| 講師名 | 中村　翔 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 8 |
| 到達目標 | 舌・唾液腺など、口腔の周囲組織について理解する。<br>頭蓋骨の構造・分類及び、顎関節について理解する。<br>顔面及び、口腔付近の筋肉の分離と働きについて理解する。<br>口腔付近の動脈、静脈、リンパ、神経などを理解する。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 解剖学では、ある程度の学名を暗記しなければなりません。解剖学とは人体の地図の読み方を学ぶ学問だからです。口腔解剖学は、歯科医療において役に立つよう、頸部から上のもう少し詳しい地図の学習です。<br>教科書の図や、スライド、顎模型、頭蓋骨の模型等で、視覚的に学習すること。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 | | | | |
| 教材 | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 口腔とは<br>唾液腺 |
| 2 | 口腔を構成する骨 |
| 3 | 頭頸部の筋と作用 |
| 4 | 口腔付近に分布する脈管系 |
| 5 | 神経 |
| 6 | 顎関節 |
| 7 | 下顎の運動<br>摂取行動 |
| 8 | 嚥下、咀嚼筋<br>まとめ |

| 科目名 | 歯科薬理学 | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 24 |
| 講師名 | 淺井　友啓 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 6 |
| 到達目標 | 過去に学習した基礎科目（生理学、生化学、解剖学、微生物学等）の知識を生かし、生体に薬物を使用した際の正常時との違いを理解する。<br>主に口腔内に使用される様々な分野の薬について名称、種類、作用、特徴、使用方法を理解する。<br>歯内療法に用いられる薬剤について、臨床の場での適した使用方法、危険性を理解する。<br>予防に用いられる薬剤について、自ら後の勉強ができるよう最低限の薬の知識を知り、臨床の場においては他の者に説明できる力を養う。（歯科衛生として診療及び保健活動を行う上で最も必要な知識である。よって、新しい分野においても知らぬことは許されない）<br>歯科薬剤、消毒薬等を取り扱う上での危険性や医療事故を予測した薬剤の管理、取り扱い方法を理解する。<br>歯科薬剤等により医療事故が起きてしまった際に、適切な対応、処理が出来るよう知識を整理する。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 様々な文献をみるとまったく同じ薬剤でも、名称が異なることがある。（例　アドレナリンとエピネフリン）これらを整理し自分自身が混乱しないように記憶の整理が必要である。<br>同じ薬剤でも複数の用途が存在する。（例　酸化ユージノールは、仮封、歯髄沈静、歯周パックなど）1つの薬剤において多角的知識を養う必要性が求められる。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 主　歯科衛生学シリーズ　薬理学 | | | | |
| 教材 | プリントコピー　各科該当分野の教本 | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 歯内療法に使用する薬（窩洞清掃消毒、歯髄沈静、覆髄、薬の症例と使用方法等） |
| 2 | 歯内療法に使用する薬（歯髄切断法、抜髄法など根管治療を行うときに使用する様々な薬剤）<br>デンティンブリッジの構造、化学記号（ハロゲンについて）<br>象牙質知覚過敏症の対応 |
| 3 | 歯周治療に薬（ペリオクリン等抗生剤について）抗菌スペクトルの復習<br>3ＭＩＸーＭＰ法について<br>Dental Dlug Delivery System（3ＤＳ）とは |
| 4 | 口腔用薬　口腔粘膜疾患や口腔内の術後細菌感染を予防するために用いる薬剤<br>軟膏剤やバッカル錠など口腔粘膜に使用する特徴的な薬について |
| 5 | 薬剤の体内動態（ＡＤＭＥ＝薬の吸収、分布、代謝、排泄について） |
| 6 | う蝕の予防に使用する薬　1<br>う蝕のでき方、各種う蝕予防法、歯磨剤の各成分と役割<br>ホワイトニングに使用する薬剤と使用方法 |

| 科目名 | 口腔病理学 | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 28 |
| 講師名 | 小林　淳一 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 14 |
| | | | | | |
| 到達目標 | 口腔領域の組織や臓器（歯、歯周組織、顎、口腔粘膜など）に生じる疾病を理解する。<br>口腔に生じた疾病の原因、経過、転機を理解し、それについての診断、治療を理解する。<br>口腔状態の正常な知識を理解し、病的な口腔状態について説明できる。<br>歯科衛生士業務、特に予防活動に従事する際、疾病の本質を理解するので、その疾病に対する対処法を説明できる。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 口腔病理学は、解剖学、生理学など基礎的学問だけでなく、関連した微生物学、薬理学などの知識も不可欠であるため、総合的な学問と捉えること。<br>教科書の口絵や図により視覚的に学習すること。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　病理学・口腔病理学 | | | | |
| 教材 | プリント | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 1. 歯の発育異常 |
| 2 | 2. 歯の損傷と着色・沈着物 |
| 3 | 3. う蝕 |
| 4 | 4. 象牙質、歯髄複合体の病変 |
| 5 | 5. 歯周組織の病態１ |
| 6 | 6. 歯周組織の病態２ |
| 7 | 7. 口腔粘膜の病変 |
| 8 | 8. 口腔領域の嚢胞と腫瘍 |
| 9 | 9. 口腔癌 |
| 10 | 10. 顎骨の病変 |
| 11 | 11. 唾液腺の病変 |
| 12 | 12. 口腔領域の奇形（形成異常） |
| 13 | 13. 口腔組織の加齢変化 |
| 14 | 14. まとめ |
| | |

| 科目名 | 口腔衛生学・統計② | 年次 | 2 | 単位 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 32 |
| 講師名 | 谷畠　里誌 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 8 |
| 到達目標 | 一般目標<br>個人および集団に対する歯科予防処置、歯科保健指導を実施するための口腔保健に関する基礎的な知識を習得する。<br>歯科保健や歯科医療の場において口腔衛生と統計処理の関係について理解する。<br>行動目標<br>歯周疾患・不正咬合・口臭の原因を列挙し、予防法を説明できる<br>歯科に関する国家統計調査について理解し説明できるようにする。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 口腔衛生学は基礎科目および臨床科目を総合的にまとめた社会歯科学に分類されるので、他科と重複する部分があるが、口腔保健全体として整理して学習すること。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　保健生態学、保健情報統計学 | | | | |
| 教材 | プリント | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | Ⅱ編　6章　歯周疾患の予防<br>Ⅱ編　7章　その他の疾患の異常の予防<br>Ⅲ編　1章　地域保健と公衆衛生 |
| 2 | Ⅲ編　1章　地域保健と公衆衛生 |
| 3 | Ⅲ編　2章　母子保健<br>Ⅲ編　3章　学校保健 |
| 4 | Ⅲ編　4章　成人保健<br>Ⅲ編　5章　産業保健<br>Ⅲ編　6章　高齢者保健 |
| 5 | Ⅲ編　7章　精神保健<br>Ⅲ編　8章　災害時の歯科保健<br>Ⅲ編　9章　国際保健 |
| 6 | 統計学<br>Ⅰ編　1章　保健情報と保険統計<br>Ⅰ編　2章　保健情報と疫学 |
| 7 | Ⅰ編　3章　歯科疾患の指数<br>Ⅰ編　5章　保健統計の方法 |
| 8 | 各指数の算出<br>統計の練習問題と解説<br>検定　ｔ検定とχ2検定の違い |

| 科目名 | 衛生行政・社会福祉 | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 24 |
| 講師名 | 坂口　昌宏 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 12 |
| 到達目標 | 我が国の衛生行政及び社会福祉を理解するために、保健・医療・福祉制度を医事法制について学習するとともに、歯科衛生のあり方を考える上での基盤となる、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する。また、健康に関わる地域の役割を理解するために、地域社会における保健対策等を通して、基本的知識を習得する。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | この科目は、主に法律を扱うため、予習として専門用語等を調べることを推奨する。講義では、毎回、レジュメを配布する。この資料は、テキストの内容を補足するものであるので、テキストと併用して活用する。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　）<br>全45問（選択式40問・記述式5問）の筆記テストと小テスト等で総合的に成績を評価する<br>出題はテキスト及び配布したレジュメより行う。 | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　保健・医療・福祉の制度 | | | | |
| 教材 | プリント | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | オリエンテーション・社会福祉制度とは |
| 2 | 衛生行政 |
| 3 | 衛生関係法（法制概論・医師法・歯科医師法） |
| 4 | 衛生関係法（歯科衛生法・関連する医療関係者の身分に関する法） |
| 5 | 衛生関係法（医療に関連する法・薬事に関連する法・地域保健に関連する法等） |
| 6 | 保健医療の動向（厚生関係統計調査・国民の健康状態と受療状況・医療施設） |
| 7 | 保健医療の動向（医療関係者・国民医療費） |
| 8 | 社会保険（医療保険制度と法を中心に） |
| 9 | 社会保険（介護保険制度と法を中心に） |
| 10 | 社会保険（児童と家庭の福祉制度と法を中心に） |
| 11 | 社会福祉（障害者の福祉制度と法・高齢者の福祉制度を中心に） |
| 12 | 保健医療の実務・まとめ |

| 科目名 | 歯科臨床概論 | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 24 |
| 講師名 | 吉田　恵美 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 7 |
| 到達目標 | 臨床での歯科衛生士の業務と診療の流れを理解する<br>チームとしての役割等を理解する | | | | |
| 学習上の注意事項 | 講義内容をまとめ、復習、確認を行うこと | | | | |
| 評価方法 | □　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　■　その他（　レポート、提出物　　） | | | | |
| 教科書 | | | | | |
| 教材 | 臨床実習要項 | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 歯科医療について |
| 2 | 心構え、患者対応、初診対応 |
| 3 | 診療前の準備、後始末等　器材の管理について |
| 4 | 歯科診療の処置の流れと使用器材 |
| 5 | 緊急時の対応 |
| 6 | まとめ |
| | |
| | |

| 科目名 | 歯内療法学 | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 28 |
| 講師名 | 遠矢　東誠 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 7 |
| 到達目標 | 歯内疾患の原因、分類を把握し、疾患と治療法を関連づけて理解する。<br>歯内治療に使用する薬剤や器材を理解する。<br>歯科衛生士として、治療操作が円滑に進むよう、準備し、補助ができるようにする。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 歯内疾患の分類と症状を確実に把握する。<br>各疾患の症状と処置方針を把握する。<br>ただの暗記ではなく、理論に沿って理解する | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　保存修復学・歯内療法学 | | | | |
| 教材 | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 1章　歯内療法の概要 |
| 2 | 2章　歯髄保存療法 |
| 3 | 3章　歯髄の除去療法 |
| 4 | 4章　根管治療・根管充填 |
| 5 | 5章　外科的歯内療法 |
| 6 | 6章　歯の外傷 |
| 7 | 7章　歯内療法における安全対策 |
| | 8章についてはそれぞれの範囲 |

| 科目名 | 歯周療法学② | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 16 |
| 講師名 | 鈴木　一生 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 8 |
| 到達目標 | 前期の他科目等で学んだ歯周組織および歯周病についての知識を理解する。<br>歯周組織および歯周病への理解を深める。<br>歯周治療における診査・診断について基本的な考え方、方法等を学び理解する。<br>歯周病治療の基本と各種方法を理解する。<br>実際の歯周病治療における歯科衛生士としての役割を理解する。<br>歯科衛生士として、臨床における歯周治療に積極的に参加し活躍できる知識と実力を習得する。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 教科書等の文章・単語の暗記に終始することなく、歯周治療学の理解に努める。<br>予習・復習を行い、講義内容の理解度が向上するよう努める。<br>講義は真摯かつ積極的な態度で受講し、疑問点は質問等により速やかに解決を図る。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　歯周病学 | | | | |
| 教材 | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 4章　歯周外科治療 |
| 2 | 5章　歯周治療としての口腔機能回復治療 |
| 3 | 6章　メインテナンス |
| 4 | まとめ |
| | III編　1章　それぞれの範囲 |
| | |
| | |
| | |

| 科目名 | 歯科補綴学 | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 28 |
| 講師名 | 坂野　彰人 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 7 |
| 到達目標 | 歯科補綴装置の種類、特徴を説明でき、製作過程を概説できる。<br>補綴装置使用における口腔の健康管理法を説明できる。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 生理学的、解剖学的に構造的に調和のとれた生体を基準に補綴治療を考える。<br>患者の全身疾患なども把握しながら、歯科治療を説明できるようにする。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　歯科補綴学 | | | | |
| 教材 | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | Ⅰ編　序章　咀嚼障害・咬合異常に対する歯科補綴<br>1障　歯科補綴の概要<br>2章　補綴歯科治療の基礎知識 |
| 2 | 3章　歯の欠損に伴う障害と補綴 |
| 3 | 4章　補綴装置とその種類 |
| 4 | Ⅱ編　1章　補綴歯科治療における検査・診断<br>2章　クラウン・ブリッジ治療の実際 |
| 5 | 3章　有床義歯治療の実際<br>4章　インプラント治療の実際<br>5章　補綴歯科治療に用いられる器材 |
| 6 | 6章　補綴歯科治療における歯科技工<br>Ⅲ編　1章　検査・診断の業務<br>2章　治療時の業務 |
| 7 | 3章　患者指導<br>4章　器材の管理 |
| | |

| 科目名 | 口腔外科学② | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 24 |
| 講師名 | 山口　智明 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 6 |
| 到達目標 | 口腔外科的疾患を理解する。<br>患者の全身状態を理解し、緊急事態に対処できる。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 教科書などに記載される基本事項を理解し、その上で応用考える。<br>どのような歯科医院に勤務しても”口腔外科”の知識は必要である。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　口腔外科学・歯科麻酔学　第２版 | | | | |
| 教材 | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | II編　口腔外科診療の実際<br>１章　診察と診断 |
| 2 | ２章　歯科診療で問題となる全身疾患 |
| 3 | ３章　口腔外科手術の準備 |
| 4 | ４章　手術の基本手技<br>５章　口腔外科小手術 |
| 5 | III編　歯科治療と麻酔<br>１章　歯科麻酔学と患者管理<br>２章　局所麻酔 |
| 6 | ３章　精神鎮静法<br>４章　全身麻酔<br>５章　緊急時の対応 |
| | |
| | |

| 科目名 | 小児歯科学 | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 28 |
| 講師名 | 内山　盛嗣 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 7 |
| 到達目標 | 小児歯科の特徴を理解し、診療補助、予防等の治療に対応できるよう基礎的な知識を理解する。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 細部にとらわれることなく、小児歯科臨床を広く応用できるよう、全体像を把握すること。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　小児歯科学 | | | | |
| 教材 | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | Ⅰ編　1章　小児歯科概論<br>2章　心身の発育<br>3章　小児の生理的特徴 |
| 2 | Ⅰ編　5章　歯の発育と異常<br>6章　歯列・咬合の発育と異常 |
| 3 | Ⅰ編　7章　小児の歯科疾患<br>Ⅱ編　1章　小児期の特徴と歯科的問題点<br>2章　小児歯科における診療体系 |
| 4 | Ⅱ編　3章　小児歯科における患者の対応法 |
| 5 | Ⅱ編　4章　障害児の歯科治療<br>Ⅲ編　1章　診察・検査時の業務<br>2章　う蝕予防 |
| 6 | Ⅲ編　3章　小児歯科治療における診療補助<br>4章　小児の口腔保健管理<br>5章　歯科診療室と器材の管理 |
| 7 | まとめ |
| | |

| 科目名 | 歯科矯正学 | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 28 |
| 講師名 | 田中　滋 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 7 |
| 到達目標 | 歯科矯正の目的と意義を理解する。<br>様々な不正咬合を理解し、その原因および予防について考える。また、その中でも特に口腔習癖についての説明ができる。<br>歯の動くメカニズムを知る。<br>種々の矯正治療法を理解し、その際に使われる多々の器具の名称および使用用途を覚える。<br>実際の矯正治療を症例によって学び、その中での歯科衛生士の役割と責任を考える。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 学ぶことを一つ一つバラバラに覚えるのではなく、一つの口腔内での事象として組織だって考える。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　歯科矯正学　第２版 | | | | |
| 教材 | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 歯科矯正学概論 |
| 2 | 不正咬合各論 |
| 3 | 口腔習癖各論 |
| 4 | 矯正治療の生物力学と診断 |
| 5 | 矯正装置 |
| 6 | 矯正器具の取り扱い |
| 7 | 口腔筋機能療法（MFT） |
| | |

| 科目名 | 高齢者歯科学 | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 24 |
| 講師名 | 齊藤　朋愛 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 6 |
| 到達目標 | 高齢者の特徴を理解し、高齢者の健康を維持、増進するために必要な知識、態度を学ぶ。<br>高齢者の全身および精神的特徴を把握し、歯科臨床においての適切な対応や口腔保健管理について習得する。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　高齢者歯科学 | | | | |
| 教材 | プリント | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 序章<br>Ⅰ編　高齢者を取り巻く環境 |
| 2 | Ⅱ編　加齢による身体的・精神的変化と疾患 |
| 3 | Ⅱ編　高齢者に多い全身疾患<br>Ⅲ編　高齢者の状態の把握 |
| 4 | Ⅳ編　口腔健康管理<br>Ⅴ編　摂食・嚥下リハビリテーション |
| 5 | Ⅴ編　摂食・嚥下リハビリテーション<br>Ⅵ編　歯科衛生士が関わる公的介護保険の概要 |
| 6 | Ⅶ編　高齢者に関わる歯科衛生の実践 |
| 7 | |
| 8 | |

| 科目名 | 障害者歯科学 | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 16 |
| 講師名 | 山下　治人 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 4 |
| 到達目標 | 障害（肢体・知的・精神・視覚・聴覚等）とは何かを理解し、障害者に対して、口腔保健の立場から援助する際に必要な知識を習得する | | | | |
| 学習上の注意事項 | 将来歯科衛生士として、高齢者や障害者歯科など歯科医療を担う一員としての自覚を十分にもち、予習、復習をしっかり行うこと。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　障害者歯科学 | | | | |
| 教材 | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 1章　障害の概念<br>2章　歯科医療で特別な支援が必要な疾患 |
| 2 | 3章　障害者歯科の歯科医療と行動調製<br>5章　リスク評価と安全管理 |
| 3 | 4章　健康支援と口腔衛生管理 |
| 4 | 7章　地域における障害者歯科<br>8章　障害者歯科における歯科衛生過程 |
| | |
| | |
| | |
| | |

| 科目名 | 歯科放射線学 | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 16 |
| 講師名 | 福島　稔晃 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 4 |
| 到達目標 | 放射線全般にわたる基礎知識を学ぶ。<br>エックス線撮影法をよく理解し、併せて撮影実習を行うことにより、円滑な診療補助技術を習得する。<br>歯科医療における放射線の利用が質の高い有益な検査である反面、被爆という損失があることをよく理解し、放射線防護の実際を学ぶ。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 講義および教科書の写真や絵を参考に学習し、よく理解した上で実習に臨み即戦力としての技能を習得すること。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　歯科放射線 | | | | |
| 教材 | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | １章　歯科医療と放射線<br>２章　エックス線画像の形成<br>３章　歯科におけるエックス線検査 |
| 2 | ４章　口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割<br>５章　パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割<br>６章　写真処理と画像保管の実際 |
| 3 | 実習 |
| 4 | 実習 |
| | |
| | |
| | |
| | |

| 科目名 | 歯科予防処置実習② | 年次 | 2 | 単位 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 96 |
| 講師名 | 深川　さやか | 授業形態 | 講義<br>実習 | 授業回数 | 24 |
| 到達目標 | 歯科衛生士の業務となる歯科予防処置に必要な知識を理解した上で、知識と技術を習得していく。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 手技を理解するだけでなく、実際に行えるように努力する。<br>処置を行う理由を絶えず考える。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　■　実技試験　　□　口頭試験　　■　その他（　身だしなみ、提出物　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　歯科予防処置論・歯科保健指導論<br>歯科衛生学シリーズ　歯周病学<br>歯科衛生学シリーズ　歯科診療補助論<br>ポイントチェック⑤ | | | | |
| 教材 | プリント | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 超音波スケーラについて（構成・原理・特徴・用途） |
| 2 | エアスケーラーについて（構成・原理・特徴・用途）<br>超音波スケーラ、エアスケーラーの使用方法について<br>歯面清掃（歯面研磨、ＰＴＣ、ＰＭＴＣの目的） |
| 3 | 歯面清掃（操作方法について）<br>歯面清掃器について |
| 4 | 偶発事故について<br>歯周治療の進め方（歯周治療の基本的な順序） |
| 5 | 歯周治療の進め方（歯科衛生士が行う検査項目について）<br>メインテナンス、ＳＰＴについて |
| 6 | 歯周治療の進め方（メインテナンスの意義について） |
| 7 | 齲蝕予防処置<br>フッ化物溶液料確認実習<br>イオン導入法実習 |
| 8 | 齲蝕予防処置<br>フッ化ジアンミン銀塗布実習<br>う蝕活動試験 |

| 回数 | 授業内容 |
| --- | --- |
| 9 | 齲蝕予防処置<br>小窩裂溝填塞法実習<br>フッ化物塗布実習 |
| 10 | 超音波スケーラーとエアスケーラー<br>　学校にあるスケーラーの取り扱い　キャビテーション確認　フェザータッチの確認<br>エクスプローラーについて　マネキン実習 |
| 11 | マネキン実習<br>エキスプローラー、歯面研磨 |
| 12 | 歯周治療の流れ（相互実習）<br>プロービング　１０歯　６点法<br>染め出し（２トーン）　ブラッシング指導 |
| 13 | 歯周治療の流れ（相互実習）<br>上下顎前歯部　プロービング　スケーリング　歯面研磨　患者指導 |
| 14 | 歯周治療の流れ（相互実習）<br>右側臼歯部　プロービング　スケーリング　歯面研磨　患者指導 |
| 15 | 歯周治療の流れ（相互実習）<br>左側臼歯部 |
| 16 | 手用スケーラーの種類<br>グレーシーキュレットについて<br>用途、特徴、目的、特異的部位、ユニバーサルとの違い、部位別操作について |
| 17 | 部位別操作について（復習）<br>スケーラー使用時の基本原則、ストロークについて |
| 18 | 部位別操作　上下顎前歯部 |
| 19 | 部位別操作　下顎臼歯部 |
| 20 | 部位別操作　上顎臼歯部 |
| 21 | 実技試験説明<br>全額復習 |
| 22 | 実技試験 |
| 23 | 実技試験 |
| 24 | 実技試験 |

| 科目名 | ウ蝕予防処置 | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 16 |
| 講師名 | 髙垣　喬三 | 授業形態 | 講義 | 授業回数 | 8 |
| 到達目標 | ウ蝕予防処置における歯科衛生士の業務を述べることができる。<br>ウ蝕予防処置法を列挙することができる。<br>ウ蝕活動試験を列挙することができる。<br>ウ蝕予防処置で使用する器具、薬品の名称、用途を述べることができる。<br>ウ蝕予防処置に必要な器材を述べることができる。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 予習、復習を心がけ、知識を習得する | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生士のための齲蝕予防処置法<br>歯科衛生学シリーズ　歯科予防処置論・歯科保健指導論<br>ポイントチェック⑤ | | | | |
| 教材 | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | ウ蝕予防処置概論<br>予防水準とウ蝕予防処置法の種類<br>フッ化物の応用 |
| 2 | ウ蝕と生活習慣<br>ウ蝕活動試験 |
| 3 | ウ蝕活動性試験　デントカルトＳＭ　デントカルトＬＢ　ＲＤテスト<br>フッ化物の基礎<br>フッ化物濃度の計算方法 |
| 4 | フッ化物歯面塗布について |
| 5 | フッ化物洗口について<br>小窩裂溝填塞について |
| 6 | 演習問題 |
| 7 | 演習問題 |
| 8 | 演習問題 |

| 科目名 | 歯科保健指導実習② | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 32 |
| 講師名 | 吉田　恵美 | 授業形態 | 講義<br>実習 | 授業回数 | 8 |
| 到達目標 | 各世代のライフスタイルを把握し、それに伴った歯科保健指導ができる<br>集団別指導対応ができる | | | | |
| 学習上の注意事項 | １年次の歯科保健指導論、歯科保健指導実習①が基本となりますが、対象者によって指導方法が変わるので、対象者をしっかり把握すること、幅広い知識をもつことが大切になります。<br>発表に向けて、グループで協力して計画的に進めること | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　■　その他（　レポート、提出物　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　歯科予防処置論・歯科保健指導論<br>ポイントチェック⑤ | | | | |
| 教材 | プリント | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | ライフステージ毎の口腔保健管理（幼児期、学齢期）<br>小集団指導について<br>企画書の作成方法について→企画書作成 |
| 2 | 原稿の作成方法について→原稿作成 |
| 3 | 原稿、媒体の作成方法について<br>原稿の修正、原稿に基づき発表練習 |
| 4 | 発表練習 |
| 5 | 発表練習→完成 |
| 6 | 学内発表 |
| 7 | 小学校実習 |
| 8 | 保育園実習 |

| 科目名 | 摂食嚥下リハビリテーション学 | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 16 |
| 講師名 | 伊藤　祐一郎 | 授業形態 | 講義<br>実習 | 授業回数 | 4 |
| 到達目標 | 摂食・嚥下のしくみとそれに関わる障害についての歯科衛生士の役割を理解する。<br>口腔の問題・障害を克服するリハビリテーションについて学ぶ。<br>摂食・嚥下の正常な仕組みと生理について理解し、リハビリテーションに繋がる評価について説明できる。<br>摂食・嚥下訓練について、その意味と適応を知る | | | | |
| 学習上の注意事項 | 解剖学や生理学などの知識が必要になるため、復習をしっかり行うこと。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション | | | | |
| 教材 | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 摂食嚥下機能のメカニズム |
| 2 | 咬合および咀嚼機能の管理と評価<br>栄養管理<br>リスクマネジメント |
| 3 | 摂食嚥下の評価<br>摂食嚥下リハビリテーションと口腔衛生管理 |
| 4 | 摂食嚥下訓練<br>歯科衛生士が行う摂食嚥下リハビリテーションの基本 |
| | |
| | |
| | |
| | |

| 科目名 | 歯科診療補助実習② | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 32 |
| 講師名 | 吉田恵美 | 授業形態 | 講義<br>実習 | 授業回数 | 8 |
| 到達目標 | 臨床に向けて、歯科衛生士に必要な診療補助を習得する。<br>歯科治療で使用する器具、薬品の名称、用途を述べることができる。<br>歯科治療に必要な器材を準備することができる。<br>対象に応じた患者対応ができる。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 機材等を大切に取り扱うこと。<br>講義、実習で学んだことを復習し、臨床で活かせるように努力すること<br>丸暗記ではなく、目的等を理解しながら取り組むこと。<br>練習については、計画的に進めること。 | | | | |
| 評価方法 | □　筆記試験　　■　実技試験　　□　口頭試験　　■　その他（　身だしなみ　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生学シリーズ　歯科診療補助論<br>歯科衛生学シリーズ　歯科材料<br>歯科衛生学シリーズ　歯科機器<br>その他、OSCEに関係する教本 | | | | |
| 教材 | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | OSCE説明、練習 |
| 2 | OSCE説明、練習 |
| 3 | OSCE　医療面接・患者誘導 |
| 4 | OSCE　仮封・合着 |
| 5 | OSCE　印象採得 |
| 6 | OSCE　CR |
| 7 | OSCE　歯内療法 |
| 8 | OSCE　矯正 |

| 科目名 | 臨床実習① | 年次 | 2 | 単位 | 8 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 360 |
| 講師名 | | 授業形態 | 実習 | 実習日数 | 51.5 |
| 目的 | 口腔保健の専門職として、学内で習得した知識・技能・態度を臨床及び臨地実習の場において実施できる能力を身につける。 | | | | |
| 到達目標 | 1. 口腔保健を担う専門職として、必要な知識を身につける。<br>2. 臨床及び臨地の場における歯科衛生士の役割を理解し、実践する。<br>3. 対象者の問題を総合的に把握し、理解する能力を身につける。<br>4. 保健･医療・福祉の場において、他職種と協働する能力を身につける。<br>5. 患者様の「からだ」や「こころ」の状態を思いやり、信頼関係を築けるような対応を身につける。<br>6. 自己を客観的に評価し、自らを向上することのできる能力を身につける。<br>7. コミュニケーション能力を身につける。 | | | | |
| 評価方法 | □ 筆記試験　□ 実技試験　□ 口頭試験　■ その他（　　） | | | | |

内容

1. 歯科診療所

・医療人としての人間性や倫理観、コミュニケーション能力を習得するために、臨床における歯科衛生士の役割を理解し、実習生としての基本的な態度を身につける。

・う蝕予防に対して必要な臨床手技・知識を習得する。

・歯周病予防に対して対して必要な臨床手技・知識を習得する。

・口腔の保健管理を行うために必要な情報の収集、継続的指導に関する知識と技のを習得する。

・歯科診療補助を行うにあたり、共同動作の基本とルールを理解し、臨床手技を習得する。

・材料薬品を取り扱う為に、性質を理解し、臨床現場での取り扱いや管理の方法を習得する。

・感染予防策に関する知識、技能を習得する

| 科目名 | 隣接医学 | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 20 |
| 講師名 | 佐野　和生・高柴　綾子<br>川端　登代美・春木　かおり | 授業形態 | 講義<br>実習 | 授業回数 | 10 |
| 到達目標 | 歯や口腔の状態は全身の健康に大きな影響を及ぼし、様々な疾患が歯や口腔の機能に影響を与える。歯科と関係の深い疾患を学び、歯科診療や多職種連携において、歯科衛生士に必要な医学的知識を習得する。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 口腔との関連や歯科診療における注意点・対応を理解すること | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 別冊デンタルハイジーン　歯科衛生士のための全身ハンドブック | | | | |
| 教材 | プリント | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 佐野先生<br>歯科衛生士が全身疾患を知る意義<br>カラー口絵 |
| 2 | 佐野先生<br>全身疾患の基礎知識と歯科診療における注意点 |
| 3 | 佐野先生<br>全身疾患の基礎知識と歯科診療における注意点 |
| 4 | 佐野先生<br>全身疾患の基礎知識と歯科診療における注意点 |
| 5 | 佐野先生<br>全身疾患の基礎知識と歯科診療における注意点 |
| 6 | 佐野先生<br>全身疾患の基礎知識と歯科診療における注意点 |
| 7 | 高柴先生<br>歯科衛生士に必要な医療安全の知識について |
| 8 | 高柴先生<br>歯科領域における医療安全管理について |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 9 | 川端先生<br>　周術期における口腔機能管理 |
| 10 | 春木<br>　歯科治療で注意が必要な疾患 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

| 科目名 | 受付・事務 | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 16 |
| 講師名 | 春木　かおり | 授業形態 | 講義<br>実習 | 授業回数 | 8 |
| 到達目標 | 歯科医院における受付業務の必要性を認識し、受付の機能と患者とのコミュニケーションの手段として話し方の重要性を理解する。<br>社会保障と医療保険を理解し、受付の事務的管理について学ぶ。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 歯科医院における受付業務は患者とのコミュニケーションが重要となる。講義内ではロールプレイやグループワークを行うため、真剣な態度で臨み、実践に通じるものになるように努力すること。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | | | | | |
| 教材 | プリント | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 受付の心構え |
| 2 | 受付の応対の作法 |
| 3 | 受付の基礎知識と業務 |
| 4 | 受付の事務的な仕事 |
| 5 | 社会保障について |
| 6 | 医療保険について |
| 7 | 総合演習 |
| 8 | 試験、まとめ |

| 科目名 | 介護技術 | 年次 | 2 | 単位 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 時間数 | 16 |
| 講師名 | 豊岡　功・吉田恵美 | 授業形態 | 講義<br>実習 | 授業回数 | 6 |
| 到達目標 | 高齢社会と介護の必要性を理解することができる<br>高齢者の精神的・身体的特徴や障害を理解し、かつ具体的な援助技術を身につけることができる。 | | | | |
| 学習上の注意事項 | 介護に関する基本を理解し、実習を通じて基礎技術をしっかり身につけること。 | | | | |
| 評価方法 | ■　筆記試験　　□　実技試験　　□　口頭試験　　□　その他（　　） | | | | |
| 教科書 | 歯科衛生シリーズ　高齢者歯科学<br>歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション | | | | |
| 教材 | | | | | |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 回数 | 授業内容 |
| 1 | 介護保険制度<br>フレイル<br>認知症 |
| 2 | 口腔管理<br>介護方法<br>リハビリテーション |
| 3 | 高齢者の生活機能評価<br>評価方法・実技<br>嚥下訓練、リハビリテーション |
| 4 | 口腔衛生管理について |
| 5 | マネキンを用いて口腔ケア実習 |
| 6 | 座位での口腔ケア実習（相互実習）<br>間接訓練 |
| | |
| | |